

巻頭の言葉

いじめは、児童生徒の心身の健全な発達に重大な影響を及ぼすとともに、他の問題行動等生徒指導上の諸問題を引き起こす背景ともなる深刻な問題です。全ての教職員が、いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得るものであり、重大事態へと発展する可能性があるとの認識をもち、早期発見・早期対応に向けて、児童生徒のささいな変化や兆候についても見逃さず、迅速かつ丁寧に対応することはもとより、未然防止に向けて、児童生徒がいじめの問題を自分のこととして捉えることができるようにすることが必要です。

そのため、各学校等においては、学級会や児童会・生徒会活動などを活用し、児童生徒同士がいじめの問題を自分のこととして捉え、共に考え、議論するコミュニケーション活動を推進し、いじめの防止について主体的に関わる取組を充実させることが重要です。

このような中、北海道教育委員会では、いじめのない明るい学校づくりに向けた話し合い等とおして、望ましいコミュニケーションの在り方について考えるなど、児童生徒による主体的な活動を通じて、いじめ等の未然防止を図ることをねらいとして、「児童生徒仲良しコミュニケーション活動奨励事業」に取り組んできました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、「どさんこ☆子ども地区会議」を書面で開催させていただくことになりましたが、今回、各学校から御提出のあった実践内容を取りまとめ、留萌管内「『どさんこ☆子ども地区会議』取組成果集」を作成しました。

本成果集には、児童会・生徒会が主体となった集会活動や児童生徒の良好な人間関係づくりに向けた実践事例を掲載しておりますので、今後の各学校や市町村の取組に活用していただきますようよろしくお願いいたします。

終わりになりますが、本成果集の作成に当たり、御協力を賜りました各学校の皆様には厚く御礼を申し上げます。

令和3年3月

北海道教育庁留萌教育局長 上田 哲史